

ハンドベルの収録に音楽監督の小六禮次郎さんが来崎！

去る8月20日、音楽プロデューサーの安東さんと音楽監督の小六禮次郎さんがハンドベルによるテーマ曲の収録のため来崎されました。好天の東京を発ったお二人でしたが、長崎は生憎の強い雨、収録会場のブリックホールはバス停から歩いて直ぐの所ですが、この距離をタクシーで移動する荒天でした。録音は地元で活躍されているレコーディングクラフトの原口さんをお願いしました。

長崎ハンドベルコミュニティの皆さん14名は12時半には揃われ、早速、本番前の練習に入りました。6月中旬から週1回の練習を重ね、



会場席の後方で演奏を聞く小六さん

それぞれに書き込みの譜面を前にやや緊張した面持ちでベルを手にされていました。



小六禮次郎さんとメンバーの皆さん



仮設スタジオで録音を聞く小六さんとメンバーの皆さん

TシャツとGパンにジャケット姿の小六さんは、簡単な昼食を終えた後、会場席の後の方で聞いておられました。里事務局長の音頭でお二人の紹介が行われ、『ベルのことはなにも分りませんから、皆さんよろしくお願いします。』との小六さんの挨拶を受け、代表の小國先生やメンバーの代表の方の挨拶などでなごやかな雰囲気の中、早速、本番前の演奏が始まりました。

今回は会場席の真中に移った小六さんは2回、3回と聞くうちに、自身のイメージに合わせるかのように幾つかのパートの方に具体的な指示を出されていました。

本番前の休憩では、ラウンジに用意したお茶に皆さん集られ、『今日は何だか乾燥してますね』と咽喉を潤されていました。これは、実のところ、ハンドベルをより澄んだ音で録音しようとのネライで朝からクーラーを入れて除湿をし、空気を乾燥させていたもので大変お気の毒でした。

いよいよ本番となり、取材中のマスコミの方々にも会場の外に移動していただき、空調の音もマイクが拾うので止め、関係者は会場の後部にある倉庫の中の仮設スタジオに退避。指揮の小國先生と13人の演奏者と会場の真中に座った小六さんだけとなり、ハンドベルの収録が始まりました。3分弱の曲は3回記録されてOK!が出ました。また、長崎ハンドベルコミュニティによる「ながさきの鐘」も収録されて3時過ぎに無事終了しました。ひとり一人の譜面に記念のサインを求められ、ズラリと並んだハンドベルと共に記念写真を撮って小雨になった長崎を後にされました。



小六さんと長崎ハンドベルコミュニティの皆さん

支援金 4100 万円突破！

ご支援まことにありがとうございます。(05.8.20 現在の支援金申込状況 4,113 万円)

2005年8月11日～8月20日にご入金いただいた方(団体・法人含む)を敬称略にて掲載いたしております。

< B枠にてご支援の方々 >

松尾純子(日見中学校区あみの目平和行進世話人)(長崎市)
長崎市役所従業員組合(長崎市)
長崎新聞社(長崎市)
長崎市立長崎商業高等学校同窓会(長崎市)

以上の方のご支援額合計 120万円

< A枠にてご支援の方々 >

辻 正子(諫早市)
西村 博(長崎市)
西村保子(長崎市)
佐々木磨智子(長崎市)
森 茂八郎(長崎市)
谷口善治(長崎市)
嶋 賢治(長崎市)
塚原繁次(長崎市)

曾我部輝子(香川県)
森下浩文(長崎市)
医療法人出口外科医院(長崎市)
原口静香(長崎市)
森内幸一(長崎市)
上村昭保(沖縄県)
映画センター理事会(長崎市)
光永 徹(山口県)
瀬口ゆり(大分市)
花井章作(大分県)
広島県医師会(広島県)
三舟求真(大分市)
松井産婦人科医院(大分市)
村上正彦(大分県)
村上尚子(大分県)
中山 巖(大分県)

医療法人くまがい産婦人科(大分県)
熊谷方巳(大分県)
熊谷秀雄(大分県)
朝長 路(長崎市)
太田かほる(長崎市)
佐藤鈞三郎(千葉県)
七嶋鷗舟(長崎市)

以上の方のご支援額合計 60万円

ここに記載された方を窓口にご協力がありますことを申し添えて表記させていただきます。ありがとうございました。2005年8月21日以降ご入金分は次号に掲載させていただきます。